

「第3節 漁業」

【基本計画 第2章第3節】

三番瀬とその周辺海域は、多くの魚類や貝類等の産卵、生育の場として、東京湾全域の漁業にとって重要な役割を果たしています。

そして、三番瀬における漁業は、首都圏をはじめとする消費者に新鮮な水産物を供給するとともに、地場産業として地域の経済と社会に大きな役割を果たしています。また、ノリやアサリ等の生産により、海域に流入した窒素・リンの回収を通じて水質浄化に寄与するとともに、貝類漁業において海底を耕うんすることにより底質の維持改善に貢献してきました。

しかし、その漁場環境は、埋立てに伴う海域の減少等により大きく変わり、多くの漁業資源が消滅、減少し、多くの漁法も消えていきました。基幹漁業であるノリ養殖業やアサリ漁業も不安定な生産を強いられ、漁業後継者不足に関しても課題となっています。また、ノリやアサリ等の生産の不振は三番瀬の持つ水質浄化機能の低下を招くことが懸念されます。

このことから、多様な水生生物が安定して生息する生態系バランスのとれた豊かな漁場の再生を図り、安定した生産と収入が得られ、若年層が将来に希望を持って漁業を引き継ぐことができるようにすることが重要です。

そのため、漁場環境の改善、安定したノリ養殖業やアサリ漁業に向けた研究の推進、漁業基盤の整備、漁業者と消費者を結ぶ「千産千消^{ちさんちしょう}」の推進等に取り組み漁業の振興を目指します。

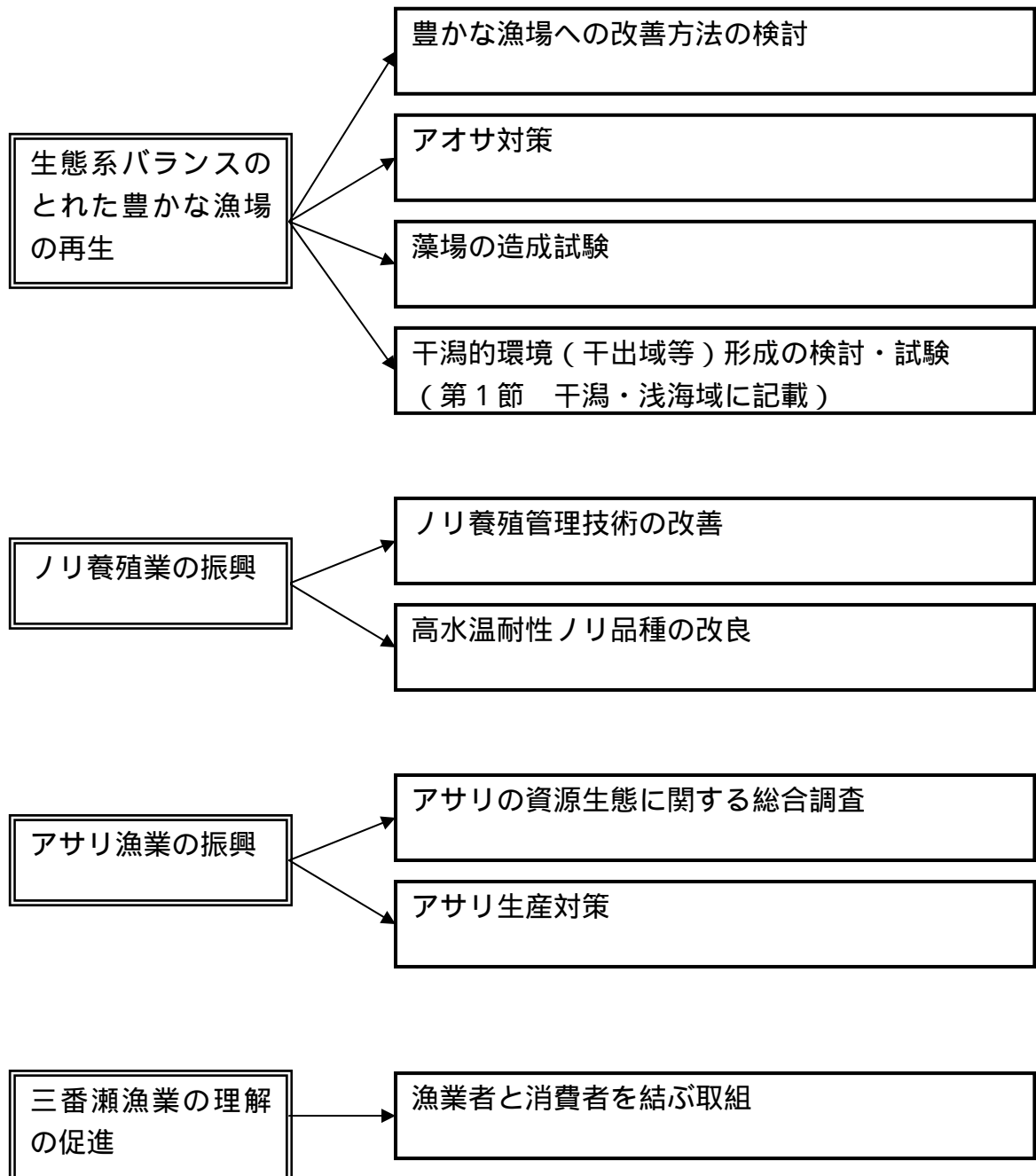
【第1次事業計画の目標】

三番瀬の生態系や水・底質環境に係る他節の諸事業との関連に留意しつつ、生態系バランスのとれた豊かな漁場の再生、漁業の振興による水質浄化機能の向上、後継者の育成、漁業者と消費者を結ぶ「千産千消」の推進を図ることにより、安定した生産と収入の得られる漁業の実現を目指すことが重要です。

この目標を達成するため、第1次事業計画期間においては、生産性の低下要因の解明に努めるとともに、漁場の改善方法の検討やアオサ対策、藻場の造成試験等に取り組み、併せてノリ、アサリに関する調査・研究等を進めます。

また、漁業者による三番瀬の漁業に関わる様々な情報発信の取組を支援して、消費者の理解を求めていきます。

【施策の体系図】



【計画事業】

事業名	事業内容
<p>1 豊かな漁場への改善方法の検討</p> <p>(中期的事業)</p>	<p>5か年の目標：三番瀬漁場改善策に係る整理と評価</p> <p>三番瀬の漁場環境は、埋立てに伴う海域の減少や流れの停滞、大雨時の江戸川放水路からの出水等により、不安定な状況にあり、漁場としての生産力が低下しています。</p> <p>このため、より良い漁場への再生に向けて漁業者の経験的知見や、これまでの調査で蓄積された科学的知見をもとに、漁場環境特性と漁業生産状況を整理した「漁場特性マップ」を作成し、流れづくりなど、漁場再生手法の具体的検討を行います。その結果を踏まえ、総合的な評価のもと、効果的な三番瀬の漁場環境の改善につながる事業に取り組みます。</p>
<p>2 アオサ対策</p> <p>(継続的事業)</p>	<p>5か年の目標：漁業者との連携によるアオサの発生状況に応じた回収・処理方法の確立</p> <p>大量に発生したアオサは、堆積・腐敗して、三番瀬の漁場環境に悪影響を及ぼすことから、アオサを効率的に回収し処理する方法を早急に確立する必要があります。</p> <p>このため、漁業者と連携してアオサの発生量を継続的に把握するとともに、自走式潜水トラクターによる回収の実用化を進めます。</p> <p>また、アオサ対策に関する事例収集等を行い、有効利用を含めた処理方法の確立を目指します。</p>
<p>3 藻場の造成試験</p>	<p>5か年の目標：漁業者等との連携によるアマモ場づくり</p> <p>これまでの藻場造成調査の結果から、現在の三番瀬ではアマモの越夏は困難と推定されますが、一部の海域ではアマモの生育に適した箇所も確認されました。</p> <p>このため、それらの海域において、漁業者等と連携して、モニタリング調査を行いながら藻場造成を</p>

(緊急・早期着手事業)	<p>試行します。</p> <p>併せて、造成箇所において魚介類の産卵状況や幼稚魚の生息状況等の調査を行い、藻場の持つ機能について評価検証を行います。</p>
<p>4 ノリ養殖管理技術の改善</p> <p>(継続的事業)</p>	<p>5か年の目標：三番瀬の漁場環境に対応した適切なノリ養殖管理技術の確立</p> <p>三番瀬におけるノリ養殖は、漁場環境が不安定で、疾病による生産阻害が著しいなど、厳しい生産状況に置かれています。</p> <p>このため、現場での巡回・技術指導等を継続して、漁場の変化を的確に把握し、漁場特性に対応した漁場行使やノリ網の管理等、ノリ養殖管理技術の確立を漁業者と連携して進めます。</p>
<p>5 高水温耐性ノリ品種の改良</p> <p>(緊急・早期着手事業)</p>	<p>5か年の目標：漁業者との連携による高水温耐性ノリの開発</p> <p>近年、海水温の上昇により、三番瀬をはじめとする東京湾のノリの主要産地では、ノリ養殖の開始時期が遅れ、年内の生産枚数の減少や、ノリの品質低下により、漁家経営が大きな打撃を受けています。</p> <p>このため、漁業者と連携し、高水温下での養殖を可能とする新しいノリ養殖品種を品種改良により作出し、品質の向上と市場価値の高い年内生産量の増加を図ります。</p>
<p>6 アサリの資源生態に関する総合調査</p> <p>(継続的事業)</p>	<p>5か年の目標：アサリ浮遊幼生の生態及びアサリ資源の変動要因の解明</p> <p>三番瀬をはじめとする東京湾のアサリ資源の維持・増大を図り、持続的に利用するためには、アサリの初期生態と資源量の変動を継続的に調査し、把握する必要があります。</p> <p>このため、定期的なサンプリング調査等により、アサリの浮遊幼生や着底稚貝の発生量を把握するとともに、漁業者と共同でアサリの資源分布、肥満度等の調査を継続します。</p>

<p>7 アサリ生産対策</p> <p>(継続的事業)</p>	<p>5か年の目標：アサリの冬季減耗対策、稚貝対策及び秩序ある漁場利用の確立</p> <p>三番瀬ではアサリ資源の減少傾向が続いており、早急な資源の維持・増大策の実行が求められています。</p> <p>このため、アサリ資源の減少防止対策のひとつとして考えられる冬季の波浪抑制技術の導入について、これまで行ってきた調査データの解析結果をもとに、順応的管理による具体的事業の展開を目指すとともに、アサリ稚貝を傷めず効率よく回収し、適地に移植する方法の開発を進め、漁場生産力の利用・活用に努めます。</p> <p>また、一部の海域では密漁によるアサリ資源への影響が懸念されることから、漁業者による適切な漁場管理を支援するなど、秩序ある漁場利用を図ります。</p>
<p>8 漁業者と消費者を結ぶ取組</p> <p>(継続的事業)</p>	<p>5か年の目標：「千産千消」やブランドづくりの取組支援</p> <p>三番瀬の漁業を活性化させるためには、漁業への幅広い県民の理解が必要です。</p> <p>このため、県下全域における取組との整合を図りつつ、「千産千消」やブランドづくりの取組等、漁業者による三番瀬の漁業に関わる様々な情報発信を支援して消費者との結びつきを深めていきます。</p>

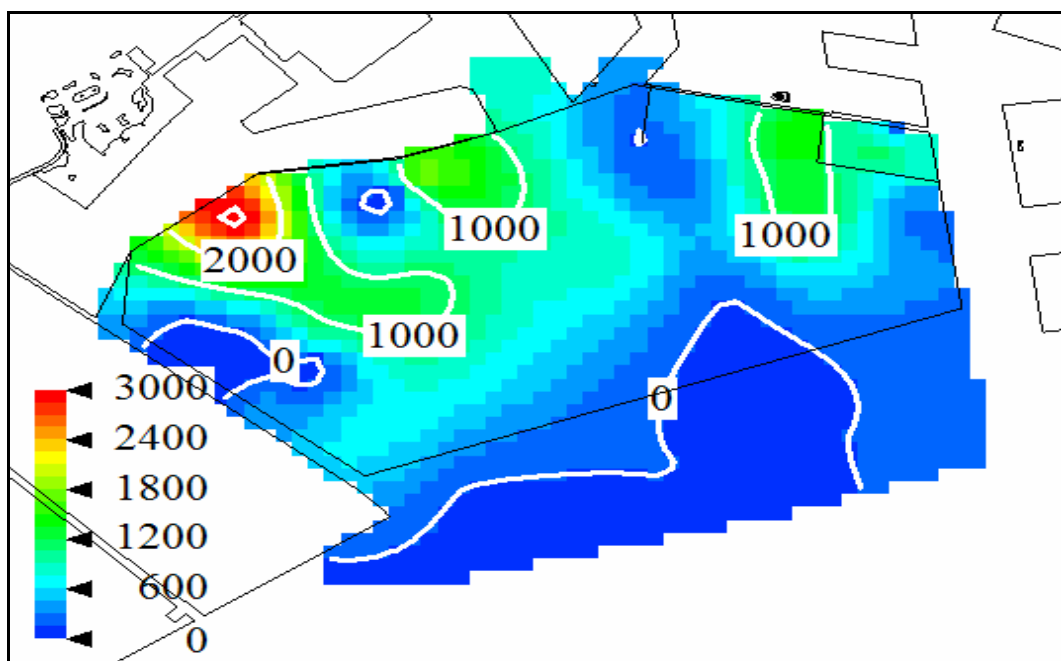


図 2 - 3 - 1 三番瀬におけるアオサの分布状況
 (平成 17 年 10 月 ~ 12 月) 単位: 湿重量 g/m²

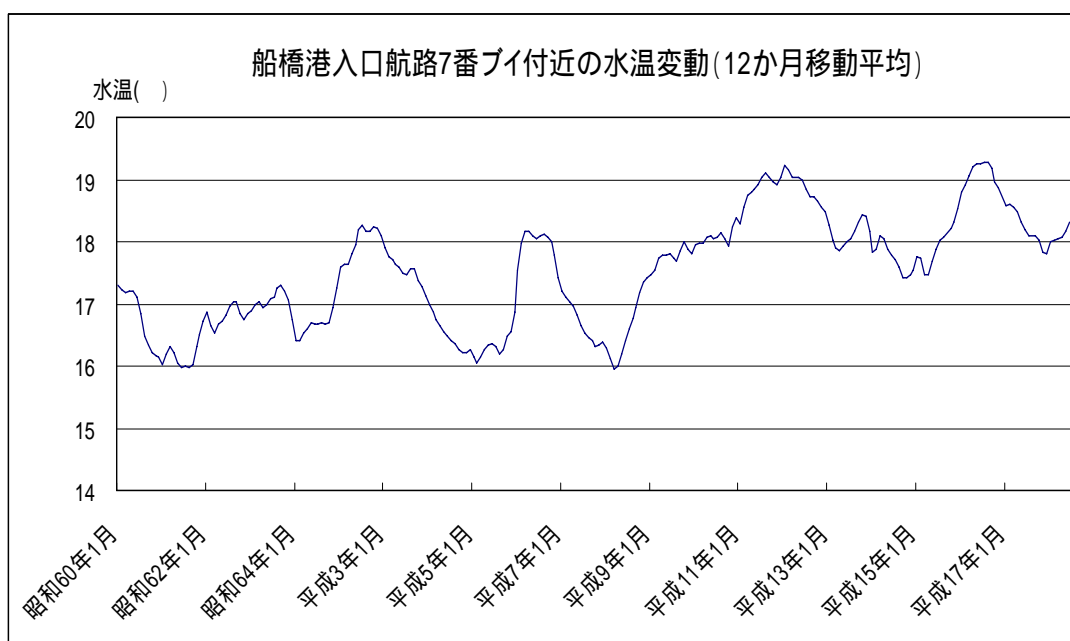


図 2 - 3 - 2 三番瀬における水温の経年変化